

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 公益財団法人浜松国際交流協会

【介護のための日本語教室】

1 事業の趣旨・目的

不況下においても慢性的に人材が不足している介護業界において、地域の定住外国人を幅広く活用し、介護業界における新しい人材の確保と業界の活性化を目指す。そのため、介護業界への就職を目指す外国人を対象に、介護の現場で求められる日本語と技術を習得するための日本語教室を開催する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
7月15日	西原 鈴子（委員長） 春原 憲一郎 藤田 美佳 川合 文男 齊藤 和明 中津川 俊郎 宮地 庸次 鈴木 康雄	事業趣旨 昨年度の教室にみる 成果と課題 今年度の教室について	事業趣旨説明 昨年度の教室の課題解決に向けて 今年度の教室内容協議
9月30日	西原 鈴子 春原 憲一郎 藤田 美佳 柴田 治（川合文男代理） 齊藤 和明 黒岩 美千子（中津川俊郎代理） 宮地 庸次	事業報告 教室の成果と課題 今後の方向性	事業内容報告 意見交換と質疑応答 課題協議

	中村 利恵子		
12月8日	西原 鈴子 春原 憲一郎 藤田 美佳 齊藤 和明 鈴木 康雄 山田 喜美子	事業報告 事業の成果と課題 今後の事業継続	教室・実習内容報告 意見交換と質疑応答 ヘルパー2級講座・外国人就労支援事業など 他団体との協働について

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称
介護のための日本語教室
- ② 開催場所
舞阪文化センター、浜松市福祉交流センター、雄踏文化センター
和合せいれいの里聖隷研修センター、浜松市外国人学習支援センター
- ③ 学習目標
失職状況にある在住外国人が、介護や介助業務に必要な日本語コミュニケーション能力を習得し、就職できるようにする
- ④ 使用した教材・リソース
「介護のための日本語」(昨年度事業で開発した独自テキスト)
ビデオ教材
ストレッチャー・車いす
介護用ベッド
高齢者疑似体験セット
介護食(常食・ミキサー食・きざみ食・ソフト食・とろみ剤)
介護用オムツ
- ⑤ 受講者の募集方法
チラシ配布、および当協会機関紙(HICE NEWS)とホームページに開講記事を掲載。今回はポルトガル語、英語、スペイン語以外に中国語での案内も加えた。開講にあたり事前能力をチェックするため、日本語能テストと常識テストを経て、一定基準の能力を有する受講

者を選定。

⑥ 受講者の総数 13 人

⑦ 開催時間数(回数) 54時間 18回(全36コマ)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	9月1日 13:30~16:30	3時間	12人	ブラジル・ポルトガル語 (3人) フィリピン・タガログ語 (9人)	教授者1人 (看護師) 補助者1人 (日本語講師)	開講式・オリエンテーション・施設見学
②	9月2日 13:30~16:30	3時間	13人	ブラジル・ポルトガル語 (3人) フィリピン・タガログ語 (10人)	教授者2人 (日本語講師・介護福祉士) 補助者3人 (日本語ボランティア)	自己紹介・高齢者疑似体験・食事介助・遊戯(レクリエーション)
③	9月3日 13:30~16:30	3時間	11人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (9人)	教授者1人 (看護師) 補助者1人 (日本語講師)	衣類着脱介助・衣類着脱の原則
④	9月6日 13:30~16:30	3時間	12人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (10人)	教授者2人 (日本語講師・バイリンガル講師) 補助者1人 (日本語ボランティア)	介護職員としての心構え・セニア体験・衣類着脱介助
⑤	9月7日 13:00~16:00	3時間	12人	ブラジル・ポルトガル語 (3人) フィリピン・タガログ語 (9人)	教授者1人 (日本語講師) 補助者1人 (日本語ボランティア)	入浴介助・車椅子体験・衣類着脱介助
⑥	9月8日 13:30~16:30	3時間	10人	ブラジル・ポルトガル語 (2人)	教授者1人 (介護福祉士)	「笑顔になるための」

				フィリピン・タガログ語 (8人)	補助者1人 (日本語講師)	食事・食事 介助(する 側、される 側)
⑦	9月9日 13:30~16:30	3時間	11人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (9人)	教授者2人 (バイリンガル 講師・日本語講 師) 補助者1人 (日本語ボラン ティア)	介護職員と しての心構 え・食事介 助・食事の 種類につい て
⑧	9月10日 13:30~16:30	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語 (1人) フィリピン・タガログ語 (8人)	教授者1人 (日本語講師) 補助者1人 (日本語ボラン ティア)	漢字テス ト・車椅子 体験・食事 介助の仕方 の練習
⑨	9月13日 13:30~16:30	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (7人)	教授者2人 (看護師・栄養 士) 補助者3人 (日本語講師・日 本語ボランティア)	常食と介護 食の調理実 習後、食体 験し感想発 表
⑩	9月14日 13:30~16:30	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (7人)	静岡県介護実 習・普及センタ ー 開催	移動介助 (介護ベッ ドを使用)
⑪	9月15日 13:30~16:30	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (7人)	教授者1名 (介護福祉士) 補助者2名 (日本語講師・日 本語ボランティア)	排泄介助 (紙パンツ を使用)
⑫	9月16日 13:30~16:30	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語	教授者1人 (日本語講師) 補助者2人	排泄介助 (オムツ・ポ ータブルト

				(7人)	(日本語ボランティア)	イレの使用 方法)
⑬	9月17日 13:30~16:30	3時間	8人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (6人)	教授者2人 (日本語講師・バイリンガル講師) 補助者3人 (日本語ボランティア)	異文化理解・日本人との付き合い方・介護の仕事について
⑭	9月21日 13:30~16:30	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (7人)	浜松市高齢者福祉課・介護保険課による出張出前講座	高齢者福祉について・介護制度について
⑮	9月22日 13:30~16:30	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (7人)	教授者2人 (看護師・バイリンガル講師)	介護の根拠・着眼点(遊ビリ)・心構え
⑯	9月24日 13:30~16:30	3時間	9人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (7人)	教授者2人 (看護師・日本語講師) 補助者1名 (日本語ボランティア)	利用者に接して考える「人との関わり」・まとめのテスト
⑰	9月25日 13:30~16:30	3時間	8人	ブラジル・ポルトガル語 (2人) フィリピン・タガログ語 (6人)	教授者1人 (日本語講師)	まとめの授業・修了式
⑱	10月21日 14:00~16:00	3時間	3人	ブラジル・ポルトガル語 (1人) フィリピン・タガログ語 (2人)	教授者1人 (日本語講師)	施設実習振り返り・就職活動について

①授業報告

○排泄介助(9月15日 教授者:介護福祉士)

(1)手遊ビリ(手遊び+遊び+リハビリテーション)

(2)グループワーク

- ・自分が排泄をするとき思うことは？
- ・排泄をしたくなるときはどんな時か？
- ・気持ちのいい排泄とはどういうことか？

→【笑顔になってもらう排泄とは何か】【介助のときの気持ち】について話し合う

グループ A

【笑顔になる排泄とは何か】

- ・安全な環境
- ・声をかける
- ・トイレの場所を教えてあげる
- ・キレイにしてあげる
- ・洗ってあげる

【介助のときの気持ち】

- ・かわいそうだなと思う
- ・泣きたいだろうな
- ・恥ずかしいと思う
- ・介助は早くやってほしいと思ってるから笑顔になるために早くきれいにあげたい
- ・高齢者もすごく辛いなと思う
- ・気持ち悪くならないように安全にはやくしてほしい
- ・安心してほしい

グループ B

【笑顔になる排泄とは何か】

- ・臭いとり
- ・オムツ換える時間
- ・声かけして安心してもらう
- ・プライバシーを守るためにカーテンを閉める
- ・清潔にしてあげる

【介助のときの気持ち】

- ・恥ずかしくないように
- ・嬉しい
- ・キレイにしてあげたかった
- ・病気にならないように

(3)発表

意見交換、傾聴、相互理解を目指す

(4)体験

紙パンツを利き手をついた状態で片手で着脱をし、パンツの自己管理を体験してもらうことで、何

がどのように大変なのかを「想像」だけでなく実感する



○排泄介助（9月16日 教授者：日本語講師）

→前日の流れを受けて

(1) Q&A

- ・今朝起きてからトイレに何回いったか→数回
- ・どこで排泄するか→普通はトイレ→ポータブルトイレ→便器・尿器→オムツ
(オムツは最後の手段であることを知る)

(2) 受講生の意見

- ・トイレに行けなくなったらすぐオムツをする
 - ・(昨日のオムツ着用で)赤ちゃんみたいな気持ち
 - ・自分はオムツをつけたくない
 - ・赤ちゃんは生まれた時からやり方を知らないからオムツをしている。高齢者になってからのオムツは今までトイレに行けたことを知っているから赤ちゃんのオムツとは違う。
- 排泄は繰り返し行われる行為⇒気持ちよく生活したい
オムツをする人の気持ち＝恥ずかしい、きつい、暑苦しい、臭い
→気持ちよく、待たせない、恥ずかしくないように、温かい態度で笑顔で声かけ

(3)テキスト P37 「排泄介助①」

【表現練習】

- 1.「～させていただきますね」
- 2.「～くないですか」

【オムツ交換】

- ・用具の説明・・・オムツ、オムツカバー、チリ紙、蒸しタオル、容器、ぬるま湯、汚物入れ、スクリーン
- ・仰臥位(＝横向きの姿勢)
- ・腰あげ

【会話練習】 P38 「鈴木さんのへやでオムツを換える」

ここまでの授業を復習したうえで、ビデオをつかい視覚的に排泄介助を捉える

(4)ビデオ観賞「排泄介助 ポータブルトイレでの介助 オムツの介助」

※大切なポイントの時は止めて説明

(5)テキスト P39 「排泄介助②」

【表現】

- 1.「～は いかがですか？」・・・お手洗いはいかがですか？
- 2.「どうぞ {お/ご}V ください」・・・どうぞお座りください
- 3.「また あとで V てみましょうか」・・・またあとで座ってみましょうか

【お年寄りの訴え】

【会話】「トイレ誘導 排泄介助をする」

(6)宿題

①漢字練習 ②今日学んだこと(原稿用紙)

①②以外に

③オムツ体験(夜着用。その中に排尿して2時間過ごす←山本さん(看護師)からのアドバイス)

④P41 タスク記入

→次のようなとき 何といますか？

a.あなたは鈴木さんの介助をしています。トイレまで連れていきましたが、まだ排泄できないようです。あなたは何と言いますか？

b.鈴木さんの排泄介助の時間です。

あなたは鈴木さんに行きたいか行きたくないか(を)聞きたい。

そのとき 何と言いますか？

→③のオムツ体験を通してどう思ったか(感じたか)

- ・どうしても排泄できなかった
- ・子どもに「やめて！」と言われた
- ・気持ち悪かった
- ・落ち着かなかった

・早く換えたかった

○遊ビリ＝遊び＋リハビリテーション（9月22日 教授者：看護師）

(1) 問いかけ

介護ってなんだろう？ただ食事介助・排泄介助・入浴介助・移動介助をすることだけが、介護なのだろうか？と受講者に問う。回答は、介護利用者が「笑顔であること！」「幸せになる事！」

(2) 遊ビリの意味

・遊び＋リハビリテーション

→楽しく遊びながら自然に手足を動かしてリハビリになっていること。あまり深く考えず、楽しいということを相手と分かち合うことが最も重要である

・介護とは・・・その人の人生に寄り添っていく大切な仕事である

→人生に寄り添う仕事である以上楽しくなければ生きている意味がない→だから遊びを提供する

(3) 遊ビリの体験⇒順序だてて行う

「挨拶」・・・利用者さんが朝昼の区別がつかない人もいるので“おはよう”“こんにちは”“こんばんは”の挨拶でわかってもらうようにする

「月日の確認」・・・利用者さんに尋ねて、わからない場合でも蔑まないような言葉でわかっていたことを説明

「軽体操」・・・視野の関係で見えにくかったりするのでオーバーアクションで行う

「発声練習」・・・パタカラ体操(パ・タ・カ・ラと発声することにより弱ってきた舌の動きをリハビリ

「スキンシップ」・・・輪を小さくしてゲームを歌に合わせながら行う。ノリが良く効果あり。

「歌を歌う」・・・2曲。利用者さんの年代になじみのある曲。日本の昔の歌であるが、わからなくても歌おうと努力していた

「深呼吸」・・・利用者さんの上がったテンションを戻すことが大変重要。閉眼し呼吸を整えて終了する

(4) 高齢者になって遊ぶ

・高齢者疑似体験キットを使い、「片マヒ」状態「腰が曲がった」状態「視野が狭くなった」状態で風船を使ってバレーボールをする

→「怖かった」(多数)「転びそうになった」「体が痛い」「手が不自由だと辛い」「思うように動けない」など、高齢の体でできる遊びの限界について身をもって体験する



○先輩の声（9月6日、9日、17日、22日 教授者：第一期・二期修了生ブラジル3人・フィリピン1人）

(1) 受講生より質問

もし高齢者が病気になったらどうしますか

介護の仕事で失敗したことはたくさんありますか

慣れないときによく失敗することは何ですか？注意することは何ですか？

高齢者に気をつけなければならないことは何ですか？

この仕事をやってよかったことは何ですか

経済的に満足してますか

誰もがやりたい仕事をしているように感じますか

この分野での幸せの作業ですか

仕事が好きですか

一番最初の仕事をするとき、どんな気持ちですか？

高齢者にはじめてあったとき何のことばがが出来ますか

一番最初に働いたときに難しくて大変だと思いますか？

やめる気持ちはありましたか

わからない話をするときはどうしましたか

(2) 「介護のための日本語教室」を修了した後、介護施設に就職した先輩の話をきく

・介護の仕事で気をつけること

連絡をする

(仕事内容などについて)話し合い・相談する

常に手帳を持ち歩き、メモをこまめにとる

わからなければもう一度聞く

利用者さんより高い目線で話をしない

いつも笑顔をこころがける

本当の家族に接するように介助する

優しく話しかける

薬の量を間違えないようにする

時間を守る

介護の仕事をするときに大切なのは心

・人間関係(職員同士・利用者さんと)

慣れてきても「～さん」づけのまま。あまりなれなれしくない

約束・時間を守る

挨拶をする

先輩を尊重する

日本文化を理解する

・介護の仕事をしてよかったこと

お母さんと同じような人がいる

利用者さんを通して日本人を知ることができる

ほんとうの家族のように思える

やりがいがある

利用者さんたちがとても喜んでくれる

辞めるとき(ヘルニアにより退職した修了生)利用者さんたちが悲しんでくれたこと・一緒に泣いたこと

最初不安だらけだったが、仕事をはじめると消えた

経済的に満足しているわけではないが、この仕事が好き



②課題と成果

【成果】

- ・体感する授業が多くあり、介護の仕事というものを具体的にイメージできるようになった
- ・介護の仕事はどんなものか漠然とした不安を抱えていたが、先輩の話を何度も聞くうちに

怖くなくなったという受講生が増えた。また、心構えを学ぶことができたので日本人である利用者や介護職員との関わり方について現実的にイメージできるようになった

- ・やりがいのある仕事だとわかり、ぜひ働きたいという意見が出た
- ・夜の仕事を辞めて介護の仕事に就きたい(フィリピン人)
- ・今のままでは良い働きができないからと、日本語の勉強を続けながら、ホームヘルパー2級の講座を受けたいという受講生がいる

【課題】

- 実習に参加したが、介護の仕事に理想を描きすぎていたため、現実とのギャップに耐えられずリタイヤした受講生がいた
- 本教室修了後からヘルパー2級の講座の開講時期までに間があきすぎてしまい、せっかく介護の仕事に意欲を持ち始めたにも関わらず、熱が冷めてしまう。教室と実習が終わった段階で終わった感をもってしまう受講生がおり、継続した学びを促すことができなかった。
- どうしても「介護」という強い意志のない受講生の場合、車がない、面接に至らない、子どもの学校の都合など物理的な理由があると、その理由を乗り越えてでも就職しようという意欲がなくなる
- 日本語の教室に通って日本語レベルを上げてから就職したいが、夜の仕事を就いているため朝起きられず教室に行けないという修了者の対応。彼らにとって夜の仕事は生活を支えているため辞められず、対応が困難になる。
- 浜松市外在住の受講者にとって、生活保護を受けていることから遠方の介護の教室に通うことができなくなってしまった。
- 時間や約束事に非常にルーズなところがある。授業では介護について学ぶが精一杯となってしまう、日本人の価値観や一般常識的な内容について、もう少し時間をかけて指導する必要がある。

⑨ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
大野 マリア	タガログ語 (フィリピン)	8年	1回	授業教授者
ブラガ ミルヴィア	ポルトガル語 (ブラジル)	16年	1回	授業教授者
片岡 イレネ	ポルトガル語 (ブラジル)	19年	1回	授業教授者

青木 アメリア	ポルトガル語 (ブラジル)	14年	1回	授業教授者
---------	------------------	-----	----	-------

⑩ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
中村 利恵子	日本語講師	日本語教育免許 ホームヘルパー2級	13回	授業教授者
山田 喜美子	社会福祉法人聖隷福祉事業団	看護師	3回	授業教授者
山本 純	医療法人西山病院	看護師	4回	授業教授者
柴 美重子	静岡県介護実習・普及センター	看護師	2回	授業教授者
門奈 武人	医療法人すずかけ病院	介護福祉士	5回	授業教授者
田中 深雪	同上	栄養士	2回	授業教授者
山下 愛加	日本語ボランティア		14回	教授補助者
山村 裕美	日本語ボランティア		4回	教授補助者
牧田 梓	日本語ボランティア		8回	教授補助者
青木 悟	日本語ボランティア		4回	教授補助者
生田 祥恵	日本語ボランティア		2回	教授補助者

4 事業に対する評価について

①□当初の学習目標の達成状況

介護に関する知識を含め、現場で求められる日本語コミュニケーションの習得については、看護師・介護福祉士をはじめ、管理栄養士も講師として登壇したことで、よりリアルな現場を再現しながら行うことができた。また、先輩外国人介護職員がバイリンガル教師として言葉の講義を行ない、個々の勉強の仕方や工夫、日本人同僚との接し方などについても具体的な指導がなされた。

このように、講師・内容ともに介護現場の非常に現実味を増した状況で教室を開催するという当初の目標を達成したと考えられる。

②□学習者の習得状況

昨年度の課題であった、介護そのものの理由や意味について知り、その介護場面にあったコミュニケーションを考えてできるように授業カリキュラムを工夫した。まず、看護師や

介護福祉士が介護活動の意義や理由について指導をし、次に本教室の昨年度修了生で介護職員となっている外国人をバイリンガル教師として迎え入れ、心構えについて教えた。その後、日本語教師が場面を想定して、日本語の表現と語彙について指導した。

結果、受講者には、コミュニケーションが意図していることについて学ぶことができた。

③□日本語教室設置運営の効果、成果

全く介護業界について知識のない外国人でも、「やってみたい」職業への就職に向かって努力するきっかけを与えることができた。日本語能力への不安感を抱いていたとしても、場面をおさえた日本語を学び、コミュニケーションの実践的な練習を行なうこともできたので漠然とした不安感を多少なりとも拭うことが可能となっただろう。

また、本教室が開催されたことで、介護施設への周知にもつながった。さらに、介護人材を育成・派遣している企業との連携を取ったので、外国人は段階を踏んで資格取得を目指すことができるようになった。

④□地域の関係者との連携による効果、成果 等

外国人を対象としたヘルパー2 級取得のための講座をインフィック(株)が開催することになった。この講座に本教室の修了者が申込み、資格取得をすることができた。そのため、外国人も日本人と同等の社会的認知度の高い資格取得に向けた道筋ができたといえる。しかも本事業が社会福祉法人天竜厚生会の人材育成プログラムとタイアップした。講座修了者で現在介護職員として働いている外国人のフォローアップ体制の確立ができた。

⑤□改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

(ア) 現状

- ・修了者の就職活動状況が把握できていないため、その後の様子を図り知ることができない。
- ・物理的な条件(移動手段がなくなった)や個人的な条件(遠方に在住し、生活保護を透けている)といった理由から中途退学者が出た。
- ・事務局のスタッフ配置を、他の委託事業等との兼ね合いから臨機応変に行なうことができず、受講者一人ひとりに対して十分に適切な指導ができたとは言えない。

(イ) 今後の課題

- ・介護業界への就労に向けたプレ講座のように日本語教室を位置づけ、次にヘルパー2 級を取得するための講座を設け、就労後と終了後に受講者のフォローアップを行ないながら、人材育成システムの樹立に向けた取り組みが求められる。

(ウ) 今後の活動予定, 展望

当協会としては、今後も本事業を担い、外国人支援を先導する形で事業展開を考えていきたいが、人相手の仕事であるという点で、多くの外国人は自身の日本語能力に不安感を抱き、なかなか一步を踏み出せずにいる。外国人の社会的自立を促進するためには、資格取得によって社会的認知を受けることが好ましいが、それまでの道のりをどのように進むのかが課題である。そのため、今後は事業のみならず機関同士でも具体的な連携が求められる。

⑥ その他参考資料

事業の波及性を考え、これまで培ってきた経験と課題を明確にした報告書を作成した。

【中国帰国者のための日本語教室】

1 事業の趣旨・目的

輸送機器、楽器、光産業といった製造業を有する浜松市には、1990年の入管法の改正以来、デカセギと呼ばれる南米系外国人市民が多く居住していることは周知のとおりである。外国人人口の第2位を占める中国人の人口も増加の一途をたどっている。

平成20年度より当協会が市委託事業で中国帰国者を対象にした相談員を配置するようになったところ、彼らの日本語学習のニーズが非常に高いことがわかった。しかしながら、彼らは、その生活状況等を理由に地域で開催されている日本語教室に通ってくることはほとんどなく、外に出ることは皆無である。

今や帰国者1世は80歳を超えるなど、彼らの高齢化が著しく、病院に通う、介護サービスを受けざるを得なくなることは明らかである。まして、2世・3世の独立に伴い、1世の介護が必要な夫を老いた妻が介護をするという(老老介護)状況にいたることは想像に等しい。しかし、彼らは日本語能力が乏しいため、病院に通うことさえままならない。

さらに、2008年のリーマンショック以降、彼らもまた日系ブラジル人と同様に、日本語能力と日本の社会習慣に対する理解が十分でないことから、帰国者2世の再就職もままならず生活状況は厳しくなった。

こうしたことから、帰国者の生活と就労に向けた日本語教育支援の充実が喫緊の課題であるため、中国帰国者のための日本語教室を開催した。

2 運営委員会の開催について

【概要】※敬称略

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
9月10日 (金) 15:00～ 16:30	浜松市多文化共生センター —	小林悦夫 柳澤好昭 鈴木隆 山田拓司 佐藤康代 藤岡玉美 川合文男 柴田治 堀永乃 清水桃子 西本良	・教室の開催目的 ・事業内容について	・帰国者世帯の現状把握を十分に行うこと ・帰国者援護基金の教材を活用しながら、生活と就労の2コースに分けて実施すること ・中国人バイリンガル教師の活躍に期待し、生活支援は「延命」活動であるという認識から生活情報の提供や相談が気軽にできるような環境づくりに努めること

<p>12月17日(金) 14:00～ 16:00</p>	<p>同上</p>	<p>小林悦夫 柳澤好昭 鈴木隆 山田拓司 佐藤康代 藤岡玉美 曾美真 柴田治 西本良</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の中間報告 (防災訓練、職場体験) ・課題の共有(事業継続に向けて、コーディネーター不足など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2コースの目的を果たす内容での事業展開ができていること ・地元日本人住民との交流を深める機会を設けたことから教室を超えた活動によって、日本人と帰国者が双方住民として認識することができた ・地元の防災訓練に参加したことにより、緊急時の避難について情報提供することができた ・職場体験を通して、日本人の常識や就労観をリアルに学ぶことができた ・事業継続には補助金等の資金確保が急務で、国・県・市の支援が求められる
<p>1月28日(金) 14:00～ 16:00</p>	<p>同上</p>	<p>小林悦夫 柳澤好昭 山田拓司 佐藤康代 袴田尚子 (ゲスト) 片岡玉代 (ゲスト) 申明淳 (ゲスト) 柴田治 西本良</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の報告(はじめてのおつかい、バス教室) ・求職コースの就職状況 ・感想 ・今後の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の立場から見た教室の様子についての報告 ・バス教室について、地元企業(遠州鉄道株式会社)の協力を得て、実践練習を行ったことの報告



3 日本語教室の開催について

- ⑪ 日本語教室の名称 中国帰国者のための日本語教室
- ⑫ 開催場所 遠州浜中央公民館、遠州浜からっかぜ集会所
- ⑬ 学習目標
 - ・日常生活上必要となる日本語と地域社会の習慣を学び、地元在住の日本人との交流を深め、最低限での日本語コミュニケーションを行い、消費活動や文化的活動が積極的に行えるようにする。
 - ・就職活動に求められる日本語の表現と社会人マナー、日本人の就労観や常識を学び、再就職を目指す。さらに職場体験を通して、日本人との接し方を実践的に学ぶ。
- ⑭ 使用した教材・リソース
「生活日本語」「就労日本語」; 中国帰国者援護基金、講師作成オリジナルプリント
- ⑮ 受講者の募集方法
各区役所福祉総務課での中国帰国者相談員窓口、チラシ配布(浜松市多文化共生センター、市教育委員会)
- ⑯ 受講者の総数 20 人(申し込み人数26人)
※求職コース; 30代2人、40代6人
生活コース; 80代2人(1世)、60代2人(1世)、他不明
- ⑰ 開催時間数(回数) 2コース 計 64 時間 (全 32 回)

⑱ 日本語教室の具体的内容

<生活コース>

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	10月30日（土） 9：30～11：30	2時間	9人	中国帰国者1世、 2世、3世・中国語	教授者2人 補助者1人	初対面の人との挨拶
②	10月31日（日） 9：30～11：30	同上	4人 ¹	中国帰国者2世、3 世	同上	回覧板のもらい方・ わたし方
③	11月6日（土） 9：30～11：30	同上	7人	同上	同上	おみやげをもらったとき・ わたすときの対応
④	11月7日（日） 9：30～11：30	同上	7人	同上	同上	病院の受付での対応方法
⑤	11月13日（土） 9：30～11：30	同上	7人	同上	同上	診察を受けて症状を伝える
⑥	11月14日（日） 9：30～11：30	同上	7人	同上	同上	住宅公団のバーベキューに 参加
⑦	11月20日（土） 9：30～11：30	同上	7人	同上	同上	通院の予約の入れ方
⑧	11月21日（日） 9：30～11：30	同上	7人	同上	同上	場所を尋ねる
⑨	11月27日（土） 9：30～11：30	同上	7人	同上	同上	道順を言う
⑩	11月28日（日） 9：30～11：30	同上	4人 ²	同上	同上	バス、タクシーでの会話
⑪	12月4日（土） 9：30～11：30	同上	6人	同上	同上	防災の内容説明・練習
⑫	12月5日（日） 9：30～11：30	同上	7人	同上	同上	防災訓練
⑬	12月12日（日） 9：30～11：30	同上	3人 ³	同上	同上	ものの名称・値段を聞く
⑭	12月12日（日） 13：00～15：00	同上	3人	同上	同上	返品交換で必要な会話
⑮	12月18日（土）	同上	5人	同上	同上	バス実車練習、おつかい

1 遠州浜小学校のバザーがあるため、欠席者が多くなった。

2 1世の受講者が盲腸炎のため緊急入院となり、付添の妻も欠席となった。

3 親族結婚式のため、多くの受講者が欠席となった。

	9:30~11:30					
⑯	12月19日(日) 9:30~11:30	同上	6人	同上	同上	復習

<就労コース>

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	10月30日(土) 9:30~11:30	2時間	9人	中国帰国者1世、 2世、3世・中国語	教授者2人 補助者1人	識字(ひらがな)・挨拶
②	10月31日(日) 9:30~11:30	同上	8人	中国帰国者2世、3 世	同上	識字(ひらがな)・電話連絡
③	11月6日(土) 9:30~11:30	同上	9人	同上	同上	家族構成・数字・時間
④	11月7日(日) 9:30~11:30	同上	8人	同上	同上	以前の仕事を説明できる
⑤	11月13日(土) 9:30~11:30	同上	8人	同上	同上	どんな仕事をしたいのか 説明できる
⑥	11月14日(日) 9:30~11:30	同上	7人	同上	同上	自分に何ができるか、考え 説明する
⑦	11月20日(土) 9:30~11:30	同上	8人	同上	同上	どんな仕事があるのか探 す
⑧	11月21日(日) 9:30~11:30	同上	8人	同上	同上	求人票の見方・電話のかけ かた
⑨	11月27日(土) 9:30~11:30	同上	8人	同上	同上	実践①電話でアポイント をとる・質問をする
⑩	11月28日(日) 9:30~11:30	同上	8人	同上	同上	実践②電話でアポイント をとる・質問をする
⑪	12月4日(土) 9:30~11:30	同上	7人	同上	同上	面接練習(入室・退室)
⑫	12月5日(日) 13:00~15:00	同上	7人	同上	同上	言葉遣い・態度
⑬	12月12日(土) 9:30~11:30	同上	7人	同上	同上	職場(体験)の会話
⑭	12月12日(日) 13:00~15:00	同上	7人	同上	同上	同上
⑮	12月18日(土)	同上	5人	同上	同上	面接練習

	9:30~11:30					
⑯	12月19日(日) 9:30~11:30	同上	7人	同上	同上	面接

<職場体験>

日時 12月13日(月)~14日(火) 8:30~17:00

受入企業 共同(株) ※ビルメンテナンス業

参加者数 4人

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

● 第6回「地元住民との交流」 11月14日(日)

偶然にも該当日に団地住民の交流会が開催されるということから会場の移動を求められた際に、「帰国者が日本語を学んでいる」ことを伝えたところ、地元住民側から「ならば交流をしないか」という提案を受けた。とても貴重な機会であることから快諾したところ、日本人はバーベキューを、帰国者は水餃子を提供することにして、相互交流を深めようということになった。しかし、男性受講者が勝手にビールを持ってきてしまったり、受講者間で固まりやすい状況であったことから、もっと強制的にも交わらせるなどの工夫が必要だった。ただ、日本語能力は高くないものの人間コミュニケーション能力の高い受講者は、積極的に日本人に話しかけ一緒に水餃子を作るなどしていたことから、交流は言葉を超えて行ったほうが効果的である。



- 第13回「履歴書の書き方」 12月12日(日)

就労コースで職場体験と模擬面接を前に、履歴書指導を行った。これにより受講者の学歴や職歴を把握すると、意外にも高学歴者がいる一方で、小学校程度しか教育を受けていない受講者もいて、個々の状況があまりにも多様なため、個別の指導が必要となることなどから再就職の厳しさを痛感した。



- 第15回「はじめてのおつかい」 12月18日(土)

生活コースでバスに乗車して、一度も降りたことないバス停で降り、行ったこともないスーパーで指定された物を買ってくるという実践活動をした。バスには乗ったことがあるようだが、バス停の名前を聞くのも、地図を見るのも初めてということで、受講者はかなり緊張したようだった。安全面の確保、行動の行方を確認するために受講者に気付かれないよう尾行したところ、確かに道に迷っていたりしていたが、地図を使って店舗に入り、場所を聞くという活動をしていた。実践型での活動によって、リアルに自らの日本語力を知ることができ、受講者の満足度は高かったようだ。ただし、ある男性受講者にとっては全て経験したことのあることだったため新鮮度はあまりなく興味は半減していたようだったが、外に出るということは楽しかったようだ。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
藤岡珠美	中国語(台湾)	13年	12回	日本語指導, 翻訳, 職場体験引率
曾 美真	中国語(中国)	12年	10回	日本語指導, 相談員
片岡玉代	中国語(台湾)	13年	7回	日本語指導
申明淳	中国語(中国)	16年	9回	日本語指導
趙驕陽	中国語(中国)	18年	2回	日本語指導補助

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
三浦千尋	浜松国際交流協会 日本語ボランティア	420時間(浜松学院大学)	13回	日本語指導
袴田尚子	同上	420時間(ヒューマンアカデミー)	9回	同上
佐藤康代	同上		3回	同上
野々山勇	人権擁護委員会		1回	面接指導
山田課長	共同(株)	人事・総務担当	2回	職場体験指導
高橋直人	遠州鉄道(株)	運輸事業部	1回	乗車マナー、乗降ルール
青島一樹	同上	同上	1回	同上

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

生活と就労の2つのコースを設けることにより、受講者の学習ニーズと生活状況に的確に対応した教室内容を実施することを目標とした。結果、生活コースでは病院に通う、バスに乗って目的地に到着するといった生活行動を通訳や支援者なくできるようになった。他方、就労コースでは1名が再就職を果たすことができた。そればかりでなく、頑なに新分野に活路を見出そうとしない受講者に対して何を学ぶことによって、何ができるようになることで就職ができるようになるかを具体的に指し示すこともできた。

② 学習者の習得状況

受講者Mさんが子どもの3者面談のために遠州浜小学校を訪れたところ、入退室の際に「失礼します」と行儀よく礼をして挨拶ができ、先生との会話で「これからもよろしくお願いします」と述べることができ、学校長からの評価が高かったという。帰国者相談員に対する会話のなかでも日本語教室で文化的なことや地域の習慣を具体的に学ぶことができよかつたという振り返りがあるという。教室で何を学び、何ができるようになったのか、アンケートを通してみると自己評価は高く、授業に対する満足度が高かつたことがうかがえる。こうしたことから、日本語を学ぶということを通して、様々な学びがあつたことが明白であり、それを個人が習得したと認識し少なからず自信を得ているのではないだろうか。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

<効果>

- ・グループレッスンでニーズに合つた日本語を学ぶことができた
- ・バイリンガル講師が経験を積むことができ、彼らの特性を活かして日本人講師とのチームティーチングのノウハウを習得することができた。
- ・中国帰国者が自宅や学校以外で社会活動をするきっかけを作つた。

<成果>

- ・集住する地区での開催をすることによって、U一族の実態を解析、把握することができた。
- ・教室に対する受講者の評価と満足度が高いことから、継続して日本語を学びたい、社会と関わりたい、日本人と交流したいという受講者の欲求を生み出すことができた。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

<地域住民>

- ・人権擁護委員に帰国者の実態を直接伝えることができ、面接指導で地域社会の代表として帰国者の受講者に対して率直な助言をしていただいた。これにより、受講者は日本人が自分のどういふところを見て判断するのか、直接理解することができた。また、支援の必要性についても理解を促すことができた。

- ・児童民生委員が教室の様子を見学しに来てくれたことによって、教室の必要性和意義を理解し、地域住民にも理解を促す補助をしてくださった。
- ・地域住民が帰国者の様子を見て、彼らの存在を認識し、緊急事態時にも相互支援できるよう、帰国者への日本語教育の継続的な開催をしてほしいといった要望が出るようになった。また、公民館使用も前向きに対応してくださるようになったことから、教室に対する一定の評価を得られたのだと思われる。

<企業>

- ・中国出身ということで職場体験に受け入れてくださる企業は多くなった。一方、障害者や外国人雇用も積極的に行っており、当協会が以前から就労支援のための日本語教室を開催する際に友好的に協力してくださったという縁から共同(株)に受け入れを依頼したところ、快諾を得ることができた。訓練時の様子をうかがう限りでは、積極的に一生懸命作業に取り組んでいたという。彼らのアンケートからも「日本人が優しく接してくれた」といったコメントがあるように、この企業の従業員が外国人に対する受け入れが十分にできていることがわかる。このような日本人従業員の受け入れ意識は彼らと一緒に作業することから自然と生まれ、理解が促進されるようだ。こうしたことから、日本語教室を開催し、そのなかに職場体験のきっかけ(つまり相互接点づくり)を有することで、日本人に対する外国人とやさしい日本語の理解が進ませることができると証明することができたといえる。
- ・上述のとおり、双方が接点を持つことによって相互理解は深まる。この手法で職場体験と同様に浜松市内の唯一の交通機関である遠州鉄道(株)がバスの乗降とマナー指導、さらにバス停の見方、おつかいの引率を引き受けてもらった。実際にバスを使って乗り降りをしたり、日本語の音声アナウンスを聞いたりして、交通機関の使い方について段階的に練習することができた。また、ナイスパスの利用方法を教えたことで受講者の消費を促すことができ、販売にもつながったことから企業側へのメリットも多かったようだ。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

短期集中型の日本語教室として開催したこと、チームティーチングで教室活動を考えたことから、講師間の連携と協力体制の不十分さと講師自身の準備不足が原因で、コーディネーターが教室の体制を整えるまでに時間がかかってしまった。そのため、すぐに教室を開催したいという講師の気持ちはあるものの、資金もないことから、このままでの事業継続は困難である。一方、帰国者からの教室再開についての要望と地域自治体からの要望も高いことから、十分に事業体制を整えて教室開催をすることが求められている。

b. 今後の課題

・講師のスキルアップ

バイリンガル講師に対する日本語講師のスキルアップと日本語講師との連携によるチームティーチングによる教室運営のノウハウの確立

・運営資金の確保

帰国者の生活状況が非常に厳しいことから受益者負担での受講料を払う、会場を確保するといったことも当然難しい状況にある。こうしたことから、教室を継続的に運営していくには国や県、市の補助金、支援が必要である。

c. 今後の活動予定, 展望

浜松国際交流協会が主導してきた中国帰国者のための日本語教室だが、講座終了後の受講者からの教室再会の熱望に対して、講師を務めていたスタッフによる市民グループが立ち上がることになった。

市民グループが新規に立ち上がるということは、浜松市の多文化共生社会の構築に向けた市民レベルでの草の根活動が育まれることと期待できる。また、市民レベルでの活動は地域を動かす力となるだろう。そのため、日本人市民と中国帰国者の双方向からの生涯学習としても帰国者の日本語学習活動を継続し支援していくことが望ましい。さらに、この活動がミクロな活動で終始するのではなく、今後は企業や地域の理解者を増やしていくことが重要である。

この教室が、こうした市民協働によるものとなり、中国帰国者の居場所・交流・社会的自立を果たすという役割を担っていくことが大切である。

③その他参考資料

※受講者修了時アンケート

<求職コース>

- I. あなたは将来どんな仕事をしたいですか
- ・ 自動車の部品を検査したい。
 - ・ 研磨の仕事
 - ・ 車の部品を製造する仕事
 - ・ 正社員になりたいです
 - ・ 部品検査の仕事
 - ・ 電気の製造、組立
 - ・ 土曜日のみ仕事したいです
 - ・ まず体を回復すること健康を保つ

II. 感想、要望

- ・ 今回の学習活動に大変感謝します、日本語の勉強がようやく出来ました。まだ勉強を続けたいです。日本語力を高めたいです。
- ・ 日本語教室つづけたらいいと思います。
- ・ こんなすてきな教室と先生たちの努力に感謝しております。
- ・ 今回、日本語の面白さを知ることができました。また皆さんと一緒に勉強したいです。
- ・ 先生方が真面目で授業をしてくれました。とても感謝しております。また日本語勉強したいです。
- ・ こんなすてきな教室と先生たちの努力に感謝しております。
- ・ 先生方の教え方はとても良い。でも私は覚えられない。今後もっと頑張ります。

III. 職場体験の感想

- ・ 当日私と一緒に仕事した方は、大変親切で、熱心です。私が出来るまで仕事を教えてくださいました。
- ・ 仕事は面白かったです。
- ・ 仕事は面白かったです。

<生活コース>

I. 将来について

- ・ 友だち作り、自由に旅立つ。
- ・ 日本語が出来るといろいろな交流ができ、友達もできるし、生活にも役立つ。
- ・ 日本語が出来ると日本で生活するのに役立つ。
- ・ まず体を回復することと健康を保つ。

II. 感想、要望

- ・ 今回の学習、私にはすごく役に立ちました。また機会あれば、絶対参加します。
- ・ 日本語を勉強して、私に大変よいことです。続けたいと思っております。ありがとうございます。
- ・ 続けたいと思っております。
- ・ 日本語が勉強できたことは、私に大変よいことでした。いろんな所へ行けられるし、買い物のも出来るし、生活上に困らないので、続けたいと思っております。先生方にありがとうございます。